

2019年度 開講科目の授業題目・内容と担当教員

目 次

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
19001	外国語仏教学論著講読	落合 俊典 教授	3
19002	外国語仏教学論著講読	斉藤 明 教授	4
19003	外国語仏教学論著講読	池 麗梅 准教授	5
19004	外国語仏教学論著講読	デレアヌ フロリン 教授	6
19005	外国語仏教学論著講読	藤井 教公 教授	7
19006	論文指導	落合 俊典 教授	8
19007	論文指導	斉藤 明 教授	9
19008	論文指導	池 麗梅 准教授	9
19009	論文指導	デレアヌ フロリン 教授	10
19010	論文指導	藤井 教公 教授	11
19011	仏教文献学方法論	落合 俊典 教授	12
19012	仏教化学方法論	宮本 久義 講師	13
19013	南・東南アジア仏教文献学研究	デレアヌ フロリン 教授	14
19014	南・東南アジア仏教文献学演習	デレアヌ フロリン 教授	15
19015	内陸アジア仏教文献学研究	斉藤 明 教授	17
19016	内陸アジア仏教文献学演習	斉藤 明 教授	18
19017	内陸アジア仏教文献学演習	Paul Harrison 客員教授	19
19018	東アジア仏教文献学研究	落合 俊典 教授	20
19019	東アジア仏教文献学研究	池 麗梅 准教授	21
19020	東アジア仏教文献学研究	藤井 教公 教授	22
19021	東アジア仏教文献学演習	落合 俊典 教授	22
19022	東アジア仏教文献学演習	池 麗梅 准教授	23
19023	東アジア仏教文献学演習	藤井 教公 教授	24
19024	近現代仏教研究 (仏教学と生命倫理)	土山 泰弘 講師	25
19025	近現代仏教研究 (仏教学と環境問題)	土山 泰弘 講師	26
19026	比較宗教・比較文化	藤森 馨 講師	27

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
19101	仏教学特殊研究（夏学期）	藤井 教公 教授（代表）	28
19102	仏教学特殊研究（冬学期）	齊藤 明 教授（代表）	29
19103	日本語Ⅰ	宮田 聖子 講師	30
19104	日本語Ⅱ	宮田 聖子 講師	31
19105	古文・漢文読解Ⅰ	田戸 大智 講師	33
19106	古文・漢文読解Ⅱ	小島 裕子 講師	34
19107	サンスクリット語	宮本 久義 講師	36
19108	古典チベット語	齊藤 明 教授	37

科目番号	19001
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	木曜日3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	湯用形著『漢魏両晋南北朝仏教史』第15章「南北朝釈教撰述」
授業の目的・概要	前年度に引き続き、近代中国仏教史学の泰斗湯用形の『漢魏両晋南北朝仏教史』を取り上げる。 湯用形は、欧米の批判的かつ文献学的方法論を取り入れていることからその原典博捜は徹底している。本書を読解していくことによって原典の位置づけとその思想的意味が十分に理解されるようにしていく。
到達目標	中国仏教史研究の代表的本書の講読を通じて文献資料の取り扱いに習熟することが到達目標である。湯用形の著述は南北朝（六朝）までであるので隋唐五代宋元明清は範疇内では無いが、随時説明していくので中国仏教史研究の基本的文献の全体的把握は可能である。
授業計画	担当箇所を受講者が順次受け持ち、読解に取り組む。基本的な読解の方法は、講義室に備え付けられた叢書・全集等の研究参考書を実際に用いることで速やかに身に付くようになる。 受講者は引用原典の比定にあたって原文を直接調べるのが肝要である。CBETA や SAT 等のテキストデータだけに頼って読解することは慎まなければならない。 夏学期：①湯用形の学問。②中国仏教史研究の問題点。③湯用形と塚本善隆。④中国仏教史の基礎文献。⑤同つづき。⑥『漢魏両晋南北朝仏教史』概説。⑦同書第15章輪読（担当者決定）。⑧輪読つづき。⑨輪読つづき。⑩輪読つづき。⑪輪読つづき。⑫輪読つづき。⑬輪読つづき。⑭輪読つづき。⑮レポート試験。 冬学期：①輪読つづき。②輪読つづき。③輪読つづき。④輪読つづき。⑤輪読つづき。⑥輪読つづき。⑦輪読つづき。⑧輪読つづき。⑨輪読つづき。⑩輪読つづき。⑪輪読つづき。⑫輪読つづき。⑬輪読つづき。⑭輪読つづき。⑮レポート試験。
授業の方法	担当箇所を受講者が順次受け持ち、読解に取り組む。基本的な読解の方法は、講義室に備え付けられた叢書・全集等の研究参考書を実際に用いることで速やかに身に付くようになる。 受講者は引用原典の比定にあたって原文を直接調べるのが肝要である。CBETA や SAT 等のテキストデータだけに頼って読解することは慎まなければならない。
成績評価方法	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
テキスト	湯用形著『漢魏両晋南北朝仏教史』
参考文献	鎌田茂雄著『中国仏教史』第1巻～第6巻（東大出版会） 『定本中国仏教史』第1巻～第2巻（柏書房）
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	講義・演習に関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19002
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	金曜日5時限目
担当教員氏名	斉藤 明 教授
授業題目	Paul Williams, <i>Mahāyāna Buddhism</i> 講読
授業の目的・概要	本書は欧米における代表的は大乗仏教思想の入門書である。全体を智慧と慈悲の観点から10章に分け、大乗仏教の代表的な教理を分かりやすく解説する点に特色をもつ。本講義では、とくに仏教術語の現代語訳(英訳、日本語訳)をめぐる諸問題を分析・考察しながら授業を進める。
到達目標	仏教の教理と歴史の概要を英文で読み、考え、的確に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 1-3 Introduction [Part I Wisdom] 4-5 <i>The Perfection of Wisdom (Prajñāpāramitā) Sūtras</i> 6-8 Madhyamaka 9-10 Cittamātra (Mind Only) 11-12 <i>The tathāgatagarbha</i> (Buddha-essence/ Buddha-nature) 13-15 Hua-yen – the Flower Garland tradition 冬学期 1-2 Review and Introduction [Part II Compassion] 3-5 <i>The Saddharmapuṇḍarīka (Lotus) Sūtra</i> and its influences 6-7 On the bodies of the Buddha 8-10 The path of the Bodhisattva 11-15 Faith and devotion: the cults of Buddhas and Bodhisattvas
授業の方法	講義と演習を交えながら講読を行う。必要な関連資料は、随時配布する。参考文献ならびに関連研究は授業の中で紹介する。授業は英語を基本とするが、必要に応じて日本語でも対応する。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価。
テキスト	Paul Williams, <i>Mahāyāna Buddhism: The Doctrinal Foundations</i> , London and New York: Routledge, 1989. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	授業の中で紹介する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	予習には3時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19003
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	木曜日2時限目
担当教員氏名	池 麗梅 准教授
授業題目	陳垣著『中国仏教史籍概論』講読
授業の目的・概要	本書は中国六朝以降の歴史を研究する上で必要不可欠とされる仏教史籍を分類・概観したものである。本書の講読によって、中国史研究の資料としての仏教史籍の重要性を理解し、更に仏教史籍の梗概を通じて中国仏教史全体を俯瞰することを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって、受講者が中国仏教史の基礎文献を体系的に理解し、個々の仏教史籍に対して独自の視点と問題意識を持って調査・研究を深めていけるようになることが目標である。
授業計画	夏学期 第1回 概説 第2-6回 『出三蔵記集』 第7-10回 『歴代三宝記』 第11-15回 『開元釈教録』 冬学期 第1回 概説 第2-6回 『高僧伝』 第7-10回 『続高僧伝』 第11-15回 『宋高僧伝』
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻訳するだけでなく、その記述内容を分析して問題点を指摘した上で、関連研究の現状ならびに今後の展望についての受講者自身の考えも踏まえて発表してもらいたい。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）またはレポートにて通年で評価。
テキスト	陳垣著『中国仏教史籍概論』、北京：中華書局、1962年。
参考文献	陳垣著・西脇常記&村田みお訳『中国仏教史籍概論』、東京：知泉書館、2014年。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること。
履修上の注意	積極的な授業参加が望まれる。担当者は発表原稿を人数分用意すること。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	19004
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	月曜日4時限目
担当教員氏名	デレアス フロリン 教授
授業題目	Indian Buddhism: Basic Doctrines and Terminology インド佛教の根本教義と用語
授業の目的・概要	This year we will focus on the <i>Laṅkāvatārasūtra</i> , a late Mahāyāna scripture which has left a major imprint on the development of Buddhist thought and spirituality all over Asia. Philosophically, it represents a fusion between the Yogācāra-Vijñaptimātratā system and tenets typically associated with the Tathāgatarbha current. After an overview of the philological, historical, and philosophical background of the text, we shall read and translate passages from the Sanskrit original and compare it to the Tibetan and Chinese versions as well as to modern renderings into Japanese, English, etc.
到達目標	-- Gain knowledge of the doctrinal foundations of Indian Buddhism and its basic terminology. -- Familiarise oneself with academic English for Buddhist studies. -- Improve English language skills (focusing on reading but also paying attention to listening, speaking, and writing abilities). -- Improve reading and translation skills from Buddhist canonical languages (Sanskrit, Pali, Classical Tibetan, Classical Chinese, and Classical Japanese).
授業計画	Summer Semester 夏学期 (1)-(2) Primary sources: Sanskrit, Tibetan, Chinese, etc. (3) Modern translations and secondary literature (4) Formation and historical background (5) The place of the <i>Laṅkāvatārasūtra</i> in the history of Buddhism (6)-(7) Main philosophical tenets (8)-(10) <i>Tathāgatarbha</i> passage (11)-(13) <i>Pañcadharma</i> passage (14)-(15) Students' presentations Winter Semester 冬学期 (1)-(4) <i>Pañcadharma</i> passage (5)-(9) <i>Gaṅgānadībālukāsamās tathāgatāḥ</i> passage (10)-(13) <i>Kṣaṇabhaṅga</i> passage (14)-(15) Students' presentations
授業の方法	In the first part of the summer semester, from classes (1) to (7), I shall give lectures on the subjects mentioned above. In the second part, students are expected to prepare in advance the materials scheduled to read.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	B. Nanjio ed., <i>The Laṅkāvatāra Sūtra</i> Hadano Hakuyū et al. eds. <i>Shō nyū ryōga kyō chū (Ārya-Laṅkāvatāravṛtti; 'Phags pa lang kar gshegs pa 'i 'grel pa)</i> [by] <i>Jñānaśrībhadrā</i> (Handouts containing relevant materials will be distributed in class.)
参考文献	Daisetz Teitaro Suzuki, <i>Studies in the Lankavatāra Sūtra</i> Takasaki Jikidō 高崎直道, <i>Ryōga kyō</i> 楞伽經 (佛典講座 17) Takasaki Jikidō 高崎直道, <i>Daijō ki shin ron, Ryōga kyō</i> 大乘起信論・楞伽經 (An extensive bibliography will be provided in the class.)
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	予習: 2時間 復習: 2時間
履修上の注意	Participants must have basic knowledge of English and at least one Buddhist canonical language.
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19005
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
時限	火曜日2時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	Kazuo Kasahara ed., <i>A History of Japanese Religion</i> 講読
授業の目的・概要	本書は日本の宗教について、その歴史から教理の概要までを概説した書である。大部ではあるが文章は平明で内容的にも信頼が置ける。本書を講読することによって日本仏教形成の過程と、その発展、さらにその基盤としての日本宗教思想全体についての理解を深めることを目的とする。
到達目標	テキストは日本の宗教全般について、とりわけ日本仏教史の概説書としては内容的に詳細な記述がなされているので、本書を講読することによって新知見を増し、さらにそこから発展して受講者自身がテキストを素材として問題意識を持ってテーマを見つけ、文献資料の調査、研究にまで進むことを目標とする。
授業計画	第5章 <i>The Birth of Kamakura Buddhism</i> から読み始める。 前期第1～第15週までに第5章の <i>Characteristics of Kamakura Buddhism</i> <i>Traditional Buddhism in the Kamakura Period</i> の二節を講読。 後期第16～第30週の間には第6章 <i>The Jōdo Sect</i> の <i>The Jōdo Sect in the Kamakura Period</i> <i>The Jōdo Sect in the Muromachi Period</i> を講読する。
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて講読する。単にテキストを読んで訳すだけでは意味がないので、担当者はテキストの記述内容自体について、あるいは、それに関連する事項、またその背後にある問題について、自身が考え、調べたものを発表してもらいたい。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）にて通年で評価。
テキスト	Kazuo Kasahara ed., <i>A History of Japanese Religion</i> (Tokyo,2001) 教場でコピーを配布する。
参考文献	教場でテキストの内容ごとにその都度指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間半程度、復習には1時間半程度の時間をかけること。
履修上の注意	出席励行のこと。担当者は発表原稿を人数分用意する。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19006
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	火曜日3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆におけるテーマ設定から内容の指導、体裁、参考文献の取り扱い方、提出までに必要な事項等を教授する。
到達目標	仏教文献学の方法を習得すること。仏教文献は様々な言語で書かれていることから基本的言語の習得の上に研究テーマを設定し、論文を書くようになることが目標である。
授業計画	最初に研究テーマの設定に関して討論を重ね、具体案作成へ向けて、いくつかのレポートを作成していく。次いで受講生は、先行研究論文を読破し、先行研究の問題点についてレポートの提出が求められる。このレポートを基に新たな観点や新知見の可能性について論議検討し、研究テーマの絞り込みに努める。夏学期：①研究論文の書き方。②研究の方法論。③研究資料の探索方法。④外国語文献の探索方法。⑤研究テーマの選定。⑥複数の研究テーマ。⑦研究テーマのデッサン。⑧研究チャートの作成。⑨研究文献のフィールドワーク。⑩研究テーマ討論。⑪研究テーマ変更の方法。⑫研究会の案内。⑬学会の案内。⑭発表の方法。⑮発表。討論。冬学期：①発表と討論の方法。②討論の文句。③先行研究の徹底的解説。④外国語先行研究の解説方法。⑤当該研究者の見つけ方。⑥文字資料の扱い方。⑦活字本と刊本。⑧刊本と写本。⑨写本の読解方法。⑩写本の所在。⑪写本の探索方法。⑫写本に関する書誌学的知識。⑬文献学。⑭文献学の確立。⑮発表と討論
授業の方法	受講生の研究してきたレポートについて適宜問題点を指摘し、レベルアップを図る。また重要資料を図書館その他から取り寄せ、その解説を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
成績評価方法	平常点（論文指導への積極参加）にて通年評価
テキスト	研究テーマが定まり次第テキストや先行研究論文の集成の指導を行う。
参考文献	研究テーマ決定に従って参考文献を探索する。参考文献の探し方についても指導を行う。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19007
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	水曜日2時限目
担当教員氏名	斉藤 明 教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆に際してのテーマの設定、研究に必要な資料や参考文献の収集、適切な研究方法などを指導する。
到達目標	学位論文に関する毎回の報告と指導を踏まえ、関連する学術論文の作成方法を学んだ上で、学位論文の完成を目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説（論文とは何か：目的、方法等） 2 論文のルール 3 学位論文のテーマ設定をめぐって 4-15 報告と議論、および指導 冬学期 1 進行状況の報告と展望 2-15 報告と議論、および指導
授業の方法	学生が用意してきたレポートや研究の部分的な成果をもとに、コメントと質疑応答、ならびに討論を交えながら授業を進める。
成績評価方法	平常点により、通年で評価。
テキスト	必要に応じて授業の中で指示する。
参考文献	授業の中で紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には5時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	論文の完成に向けた地道な取り組みが期待される。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19008
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	木曜日5時限目
担当教員氏名	池 麗梅 准教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に向けて、研究テーマ、問題の設定、論文の構成、研究の方法、必要な文献、原典の翻訳・解釈などにわたって、個別に指導する。
①到達目標	合理的な研究計画に従って、研究の方法を習得しながら、学位論文の完成を目指す。
②授業計画	研究テーマによって、個別に協議検討した上で決定する。
授業の方法	論文執筆者が準備段階ごとに提示する研究成果（問題意識も含めて）をもとに、コメント、討論、または助言などを行う。
③成績評価方法	平常点にて通年で評価

テキスト	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要なテキストを用いる。
参考文献	論文執筆者の研究テーマに関連する文献を網羅的に点検し、必要に応じて助言を行う。
④準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること。
履修上の注意	合理的な研究計画の立案と、研究遂行に向けた地道な取り組みが望まれる。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	19009
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	金曜日5時限目 水曜日5時限目
担当教員氏名	デアヌ フロリン 教授
授業の目的・概要	PhD tutorials are designed to help doctoral students to prepare and write their theses. Apart from reading and analysing primary and secondary sources, students are required to submit papers reflecting the progress of their work three times per semester. We shall also explore together specific problems and methodological strategies.
到達目標	Each semester must be a clear step (measurable in number of pages) in the process of writing the MA or PhD thesis.
授業計画	To be decided with each individual student
授業の方法	We shall combine presentations done by the students with critical analysis and reading together difficult passages.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	To be decided with each particular student
参考文献	To be decided with each particular student
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習：2時間 復習：2時間
履修上の注意	An MA thesis should be a solid study/edition/translation, clearly argued and showing familiarity with the basics of the research topic. The PhD thesis must be an original contribution to a particular subject in Buddhist studies based upon meticulous philological and historical work.
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19010
科目名・単位数	論文指導 4単位
時限	水曜日2時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業の目的・概要	学位論文執筆のためのテーマの選択から、執筆完成に至るまでの全過程における事柄について教授する。論文テーマの選定、先行業績の調査、文献資料の渉猟と蒐集の方法、選定資料の読み込み、執筆内容の吟味などについて、受講者のそれぞれのテーマ、それぞれの段階に応じて指示し、論文の完成を目指す。
到達目標	受講者それぞれの修士論文、博士論文の完成を目指す。
授業計画	第1～5講 テーマの選択・設定に関する指導 第6～9講 テーマに関わる先行業績文献資料の読み込み 第10講以降 執筆内容の吟味と指導
授業の方法	授業日、授業時間はあらかじめ設定されているものの、受講者との話し合いにより、双方の都合で決定する。そのためあらかじめの打ち合わせが必要である。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）にて通年で評価。
テキスト	受講者各自が論文作成のために取り上げた文献資料、及びテーマに応じた必須文献資料を用いる。
参考文献	受講者の執筆論文の内容に応じて、その都度指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間以上、復習にも2時間程度の時間をかけること
履修上の注意	毎回、指導時間をあらかじめ担当教員と打ち合わせることを。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19011
科目名・単位数	仏教文献学方法論 4単位
時限	水曜日2時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	宋版思溪蔵の研究—伝来と現存諸蔵—
授業の目的・概要	<p>宋版思溪蔵は大正新脩大蔵經の対校本として使用されているが、歴史的には宋元明と多大な影響を中国仏教に与えたばかりでなく、日本仏教にも鎌倉時代以降春日版の底本の一部として重要な役割を果たしている。また明治時代には楊守敬が法金剛院蔵の宋版思溪蔵を購入し、それが松坡図書館（現中国国家図書館）の収蔵するところとなり、2018年6月国際仏教学大学院大学と中国国家図書館との共同編集によって復刻本が完成した。</p> <p>増上寺の宋版はSATと連携する方向でマイクロのデジタル化が急がれている。</p> <p>筑波山麓の最勝王寺には世良田の長楽寺に施入される予定であった宋版思溪蔵が収蔵されているが、長らく調査が行われなかった。今年度より日本古写經研究所が調査に入ることとなった。また前思溪と言われている岐阜県の長滝寺の「宋版一切經」も本格的な調査のための試行が検討されている。</p> <p>これらの中に榮西が請来した宋版が含まれていると想定する。以上のように伝来と現存の諸蔵を概括的に把握し、実際の調査で文献テキストの価値を認識することも視野に入れている。</p>
到達目標	宋版思溪蔵が校訂の一本としてどのように使われたか、仏教文献学の基本を学んでいく。宋版思溪蔵を基点として開宝蔵、福州版（東禅寺版・開元寺版）、高麗初雕版、高麗再雕版、趙城金蔵版、磧砂版などの諸版に対する基本的知識の習得に努めることが目標である。
授業計画	<p>夏学期①宋版思溪蔵先行研究提示。②続き。③続き。④続き。⑤続き。⑥宋版思溪蔵の目録。⑦続き。⑧続き。⑨続き。⑩続き。⑪続き。⑫岩屋寺の目録。⑬続き。⑭続き。⑮続き。</p> <p>冬学期①松坡図書館受入目録。②続き。③続き。④続き。⑤続き。⑥中国国家図書館との照合。⑦最勝王寺の宋版思溪蔵。⑧続き。⑨続き。⑩続き。⑪続き。⑫長滝寺の宋版一切經。⑬続き。⑭続き。⑮続き。</p>
授業の方法	与えられた研究課題をもとに受講生の研究してきたレポートについて適宜問題点を指摘し、レベルアップを図る。また重要資料を図書館その他から取り寄せ、その解説を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
成績評価方法	平常点にて通年評価
テキスト	随時主要なテキストを提示・配布する。
参考文献	最初の授業時に参考文献リストを提示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	講義・演習に関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19012
科目名・単位数	仏教文化学方法論 4単位
時限	集中講義(夏・冬学期) ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	宮本 久義 講師(東洋大学 客員教授)
授業題目	道をめぐるインド文化論
授業の目的・概要	<p>人はなぜ移動するのかという問題は、人間の歴史的・文化的営為を読み解くための重要なポイントであり、道はそのキーワードのひとつであると考えられる。道は、民族移動の道、交易の道、巡礼や求法の道、文化伝播の道、民族独立の道などさまざまな要素を持っている。いろいろな地図を見ながら、そこにあらわれるさまざまな歴史と文化の問題を一緒に考えていきたい。</p> <p>釈尊ブッダの求道と伝道の道や、法顕・玄奘・義浄など求法僧の辿った道を手始めに、スリランカやアフガニスタンへの仏教の伝播などを概説する。また、仏教の八大霊場と比較する意味で、ヒンドゥー教の聖地の分類やその特徴を考察しつつ、仏教とヒンドゥー教の複合的聖地であるカイラーサやヴァーラーナシーの現在の聖地信仰の実態にも触れる。さらに、イブン・バトゥータの『三大陸周遊記』やマルコ・ポーロの『東方見聞録』、鄭和の西洋下りの記録『瀛涯勝覧』などを資料として、イスラームやキリスト教とインドの地との関係にも触れる予定である。</p>
到達目標	インドを中心とする南アジアを対象として道の文化史を考えると、そこにはその地域的特殊性ととも、全世界に共通する普遍性も浮かび上がってくるであろう。それらを理解し、地理・歴史と文化・思想が緊密に結びつく様相を分析・考察できるようになることを目標としたい。
授業計画	<p>夏学期</p> <p>第1回：南アジアのトポロジー</p> <p>第2回：先史以来の道の動態</p> <p>第3回：古代インドの道</p> <p>第4回：ブッダの求道と伝道の道</p> <p>第5回：『法顕伝』とその関連資料</p> <p>第6回：『法顕伝』に見る法顕のたどった道</p> <p>第7回：『法顕伝』における地名同定の問題点</p> <p>第8回：『南海寄帰内法伝』とその関連資料</p> <p>第9回：『南海寄帰内法伝』に見る義浄のたどった道</p> <p>第10回：『南海寄帰内法伝』における地名同定の問題点</p> <p>第11回：『大唐西域記』とその関連資料</p> <p>第12回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(1)</p> <p>第13回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(2)</p> <p>第14回：『大唐西域記』における地名同定の問題点</p> <p>第15回： 仏教の八大霊場</p> <p>冬学期</p> <p>第1回：ヒンドゥー教の巡礼地と巡礼路</p> <p>第2回：プラーナ聖典概説</p> <p>第3回：『マツヤ・プラーナ』等における「マーハートミヤ」</p> <p>第4回：ブッダガヤーとガヤー(1)</p> <p>第5回：ブッダガヤーとガヤー(2)</p> <p>第6回：ヴァーラーナシーとサールナート(1)</p> <p>第7回：ヴァーラーナシーとサールナート(2)</p> <p>第8回：ヴァーラーナシーとサールナート(3)</p> <p>第9回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(1)</p> <p>第10回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(2)</p> <p>第11回：イスラームの来た道</p> <p>第12回：キリスト教の来た道</p> <p>第13回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(1)</p>

	第 14 回：『瀛涯勝覽』に見る鄭和の西洋下り(2) 第 15 回：総括
授業の方法	こちらで用意した配布資料をもとに講義を進めていく。漢文やサンスクリットの原典を使用するときには、できるだけわかりやすく解説する。また、文化論という性質上、ビデオや DVD などの映像資料も多用する予定である。
成績評価方法	平常点にて通年で評価。
テキスト	教場にて資料を配布する。
参考文献	小西正捷・宮本久義編『インド・道の文化誌』春秋社、1995 年 水谷真成訳『大唐西域記』平凡社、1972 年 義浄撰、宮林昭彦・加藤栄司訳『南海寄帰内法伝』法蔵館、2004 年 長沢和俊訳註『法顕伝・宋雲行紀』平凡社、1975 年 馬歡著、小川博訳注『瀛涯勝覽』吉川弘文館、1969 年 その他、講義中に適宜教示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習・復習ともに 120 分程度の時間をかけてほしい。
履修上の注意	講義中は常にインドの地図を参照し、インドの地理と文化が徹底的に頭に入るように努力していただきたい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19013
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学研究 4 単位
時限	月曜日 3 時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	<i>Ichchantika</i> and <i>tathāgatagarbha</i> doctrines in Indian Buddhism インド佛教に於ける一闡提説と如来蔵思想
授業の目的・概要	This year we shall explore the tension and reconciliation patterns built around the <i>icchāntika</i> concept in the Tathāgatagarbha tradition. After an introduction into the historical background of the exclusivist trend in Indian Buddhism (focusing on the Yogācāra school), we shall read and analyse key passages from the <i>Ratnagotravibhāga</i> and the Mahāyāna <i>Mahāparinirvāṇasūtra</i> in Sanskrit, Classical Tibetan, Classical Chinese and Classical Japanese.
到達目標	-- Understand the peculiarities and development of the <i>icchāntika</i> concept in relation to the <i>tathāgatagarbha</i> theory. -- Gain detailed knowledge of the doctrinal systems and historical background surrounding these tenets. -- Hone philological skills (editing, translating, annotating) necessary to work with primary sources. -- Improve knowledge of Sanskrit, Classical Tibetan, Classical Chinese, and Classical Japanese.
授業計画	Summer Semester 夏学期 (1) Indian Buddhism in the early centuries of the Common Era (2)-(3) The Tathāgatagarbha tradition: sources, history, and key tenets (4)-(5) The five <i>gotras</i> and <i>aparinirvāṇadharmakas</i> in the early Yogācāra tradition (<i>Śrāvakabhūmi</i> , <i>Bodhisattvabhūmi</i> , <i>Mahāyāna-sūtrālaṅkāra</i> , etc.) (6) The <i>Ratnagotravibhāga</i> : Philological introduction (Sanskrit original, Tibetan translation, Chinese translation, modern editions and translations) (7)-(10) <i>Ratnagotravibhāga</i> passages: Sanskrit original, Johnston ed. 27-31, collated with Tibetan and Ratnamati's Chinese translation (11-14) <i>Ratnagotravibhāga</i> passages: Sanskrit original, Johnston ed. 35-37, collated with Tibetan and Ratnamati's Chinese translation

	<p>(15) Students' presentations</p> <p style="text-align: center;">Winter Semester 冬学期</p> <p>(1) The Mahāyāna <i>Mahāparinirvāṇasūtra</i>: Philological introduction (Sanskrit original, Tibetan translation, Chinese translation, modern editions and translations)</p> <p>(2)-(8) <i>Mahāparinirvāṇasūtra</i> passages from the first 10 scrolls of Dharmakṣema's Chinese translation, collated with Faxian's Chinese translation and Tibetan parallels</p> <p>(8)-(13): <i>Mahāparinirvāṇasūtra</i> passages from the last 30 scrolls of Dharmakṣema's Chinese translation</p> <p>(14) Students' presentations</p> <p>(15) Review and discussion</p>
授業の方法	In the first part of the summer semester, classes (1) to (6), we shall review the historical and philosophical background of the Tathāgatarbha tradition. From class (7) on, students are expected to prepare in advance the primary sources scheduled to be read and analysed.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	<p>E.H. Johnston ed., <i>The Ratnagoṭravibhāga Mahāyānottaratantraśāstra</i> 高崎直道『宝性論』</p> <p>Hiomi Habata ed., <i>A Critical Edition of the Tibetan Translation of the Mahāparinirvāṇa-mahāsūtra</i> <i>Yong su mya ngan las 'das pa chen po'i mdo</i> (Peking ed. Vol. 31, No. 788) 法顯・佛陀跋陀羅譯『大般泥洹經』(Taishō ed. Vol. 12, No. 376) 曇無讖譯『大般涅槃經』(Taishō ed. Vol. 12, No. 374)</p>
参考文献	<p>Jikido Takasaki, <i>A Study of the Ratnagoṭravibhāga (Uttaratantra)</i></p> <p>David Seyfort Ruegg, <i>La théorie du tathāgatarbha et du gotra</i></p> <p>Mario D'Amato, 'Can all Beings Potentially Attain Awakening?: Gotra-theory in the Mahāyānasūtrālamkāra'</p> <p>保坂玉泉「五姓各別と成佛不成佛の問題」</p> <p>望月良晃『大乘涅槃經の研究』</p> <p>下田正弘『涅槃經の研究』</p> <p>Ming-Wood Liu, 'The Problem of the <i>icchantika</i> in the Mahāyāna <i>Mahāparinirvāṇa Sūtra</i>'</p> <p>(An extensive bibliography will be provided in class.)</p>
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習：2時間 復習：2時間
履修上の注意	The participants must have basic knowledge of English and at least one canonical language.
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19014
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習 4単位
時限	月曜日5時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	Yogācāra Philosophy and Philology: Focusing on the <i>Yogācārabhūmi</i> 瑜伽行派の文献と思想研究 — 『瑜伽行師地論』を中心に—
授業の目的・概要	<p>Firstly, the seminar aims at improving the philological skills necessary for reading difficult passages in Sanskrit and establishing a reliable critical edition from manuscript(s) collated with the Tibetan and Chinese translation(s). For this purpose, we shall focus on the <i>Yogācārabhūmi</i>, mainly the <i>Śrāvakabhūmi</i> Book.</p> <p>Secondly, we shall examine the complex doctrinal system and spiritual practices developed by the authors of the <i>Śrāvakabhūmi</i> set against the</p>

	historical background of Mainstream Buddhism and the formation of the Yogācāra school.
到達目標	-- Deepen knowledge of Buddhist philology and canonical languages -- Build up the skills necessary for critical editions and annotated translations. -- Improve palaeographical and codicological expertise in working with Indic manuscripts -- Deepen the understanding of the Buddhist teachings and practices in their historical development.
授業計画	<p style="text-align: center;">Summer Semester 夏学期</p> (1)-(3) The <i>yogin/yogācāra</i> tradition and the formation of the Yogācāra school (4)-(5) Introduction to the <i>Yogācārabhūmi</i> , focusing on the (6)-(8) Passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , Shōmonji kenkyūkai ed. 1-3 (9)-(14) Passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , Shōmonji kenkyūkai ed. 4-10 (15) Students' presentations <p style="text-align: center;">Winter Semester 冬学期</p> (1)-(3) Passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , Shōmonji kenkyūkai ed. 11-14 (4)-(9) Passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , Shōmonji kenkyūkai ed. 14-18 (10)-(14) Passages from the <i>Śrāvakabhūmi</i> , Shōmonji kenkyūkai ed. 14-18 (14) Students' presentations
授業の方法	In the first part of the summer semester, from classes (1) to (5), I shall give introductions to the subjects mentioned above. From class (6) on, students are expected to prepare in advance the materials we are scheduled to cover. Apart from reading the text in Sanskrit, Classical Tibetan, Classical Chinese, and Classical Japanese, we shall also discuss the principles and methodology of a reliable critical edition and annotated translation. Furthermore, special attention will be paid the doctrinal content, too, tracing various ideas and concepts to their canonical roots and Abhidharmic developments.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	声聞地研究会 1998 『瑜伽論 声聞地 第一瑜伽処-サンスクリット語テキストと和訳-』 Shukla, Karuneshā ed. 1973. <i>Śrāvakabhūmi of Ācārya Asaṅga</i> Deleanu, Florin. 2006. <i>The Chapter on the Mundane Path (Laukikamārga) in the Śrāvakabhūmi: A Trilingual Edition (Sanskrit, Tibetan, Chinese), Annotated Translation, and Introductory Study</i>
参考文献	Apart from Deleanu 2006 (see above), an updated review of editions and primary sources will be distributed in class.
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	予習: 2時間 復習: 2時間
履修上の注意	The participants must have good knowledge of Sanskrit, Classical Tibetan, Classical Chinese, and Classical Japanese. Solid knowledge of English is also necessary.
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19015
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究 4単位
時限	金曜日2時限目
担当教員氏名	斎藤 明 教授
授業題目	中観思想史研究
授業の目的・概要	周知のように、非有非無や不苦不楽の中道説は、仏教思想の基本的な立場を表明する。＜縁起＞を根拠にしたこの中道説は、2~3世紀のナーガールジュナ（龍樹）によってその意義が再認識され、『中論』を起点とする「中観」思想をもたらすことになる。4~6世紀には大乘仏教を代表する部派となった瑜伽行・唯識学派と、6世紀以降のインド仏教史に多大な影響力をもった中観学派の両学派は、一面では、中道の本家争いともいえる活発な論議を展開した。他方、5世紀初頭の鳩摩羅什訳『中論』『十二門論』『百論』を基礎に、中国では6世紀後半以降、三論学派の成立を見た。この授業では、夏学期は、中観学派を創始したパーヴィヴェーカ（清弁 490-570頃）に方法論的な影響を与えたディグナーガ（陳那 480-540頃）の論理学とその特色について、関連テキストを講読しながら講義する。その上で冬学期は、パーヴィヴェーカの主著『中観心論』の中の、瑜伽行派の学説批判を主題とする第5章（総数114偈）を講読しながら、中観学派成立の意図と背景を再考する。
到達目標	中観思想史を的確に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2 中道説と「中観」思想 3 「中観」思想と中観学派、中観思想史の時代区分をめぐって 4-13 <i>Nyāyapraveśa</i> （因明入正理論）講読 14-15 総括 冬学期 1 復習と解説 2 初期仏教と中道説 3-13 『中観心論』第5章講読 14-15 総括
授業の方法	講義と関連テキストの講読を中心とし、必要に応じて関連資料を配布して利用する。積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価する。
テキスト	M. Tachikawa, "A Sixth-Century Manual of Indian Logic," <i>Journal of Indian Philosophy</i> 1, 1971, pp. 111-145. その他はプリント配布する。
参考文献	斎藤明他編『大乘仏教の誕生』（シリーズ大乘仏教2）春秋社, 2011. 同編『空と中観』（同6）春秋社, 2012.
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には3時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	丹念な予習・復習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19016
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
時限	火曜日4時限目
担当教員氏名	斉藤 明 教授
授業題目	インド仏教思想関連文献講読
授業の目的・概要	インド仏教思想史上の主要なテキストを講読する。今年度は中観思想を確立したナーガールジュナ作『廻諍論』と、中観派の立場から菩薩行のあり方を論じたシャーンディデーヴァ作『入菩薩(ノ菩提)行論』を丹念に読みながら、それぞれの内容を分析・考察する。当該論書の内容と背景、および研究史を解説しながら読み進める。サンスクリット語文法に関する基礎知識が望まれる。
到達目標	サンスクリット語で著された仏教論書の読解力を身につけるとともに、的確な内容理解を目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2-15 『廻諍論』 <i>Vigrahavyāvartanī</i> 講読 冬学期 1 導入と解説 2 『『入菩薩(ノ菩提)行論』 <i>Bodhi(sattva)caryāvatāra</i> と注釈文献 3-14 『同論』 講読 15 総括
授業の方法	演習形式を基本とし、それぞれの文献の内容および研究史に関する解説を交える。授業では、テキストの読解ならびに内容に関する積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価。
テキスト	・ E. H. Johnston and A. Kunst ed., "The <i>Vigrahavyāvartanī</i> of Nāgārjuna with the Author's Commentary," <i>Mélanges chinois et bouddhiques</i> 9, 1948-1951, pp. 99-152. ・ Minayev, I.P., ed., 1890, "Bodhicaryāvatāra," <i>Zapiski Vostochnago Otdeleniya Imperatorskago Russkago Arkheologicheskago Obshchestva</i> 4, pp. 153-228. この他の関連写本・テキストはプリント配布する。
参考文献	・ K. Bhattacharya, <i>The Dialectical Method of Nāgārjuna (Vigraha- vyāvartanī)</i> , Delhi: Motilal Banarsidass, 1978. ・ Y. Yonezawa, "Vigrahavyāvartanī: Sanskrit Transliteration and Tibetan Translation," 『成田山仏教研究所紀要』 31, pp. 209-333, 2008. ・ 斎藤明「中観思想の成立と展開」『空と中観』(シリーズ大乘仏教6) 春秋社, 2012, pp. 3-41. ・ A. Saito, "Facts or Fictions: Reconsidering Śāntideva's Names, Life, and Works," 『国際仏教学大学院大学研究紀要』 22, 2018, pp. 145-164.
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	予習には4時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19017
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 2単位
時限	集中講義 ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	Paul Harrison 客員教授 (スタンフォード大学教授)
授業題目	Facets of the Diamond: Reading the <i>Vajracchedikā</i>
授業の目的・概要	The course will offer an opportunity to engage in close reading of the <i>Vajracchedikā Prajñāpāramitā</i> and related literature. It will begin with a complete read-through of the Sanskrit text of the <i>Vajracchedikā</i> itself, exploring its doctrinal content and rhetorical strategies while considering its sources and influences, before moving on to examine commentaries on the work and other aspects of its later reception in East Asia.
到達目標	The aim of this course is to provide participants with a more nuanced understanding of (1) the problems of establishing, interpreting and translating the texts of Mahāyāna sūtras and (2) the reception history of the <i>Vajracchedikā</i> .
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: Remarks on editing the Sanskrit text of the <i>Vajracchedikā</i> 2. Reading the <i>Vajracchedikā</i> I: §§1–6 3. Reading the <i>Vajracchedikā</i> II: §§7–12 4. Reading the <i>Vajracchedikā</i> III: §§13–15 5. Reading the <i>Vajracchedikā</i> IV: §§16–18 6. Reading the <i>Vajracchedikā</i> V: §§19–27 7. Reading the <i>Vajracchedikā</i> VI: §§28–32 8. Commentaries on the <i>Vajracchedikā</i>: Introduction 9. Reading the commentaries I 10. Reading the commentaries II 11. Reading the commentaries III 12. <i>Vajracchedikā</i> Miracle Tales from China, Tibet and Mongolia: Introduction 13. Reading <i>Vajracchedikā</i> Miracle Tales I 14. Reading <i>Vajracchedikā</i> Miracle Tales II 15. Concluding Remarks on the Many Lives of a Mahāyāna Sūtra
授業の方法	Lecture, text reading, discussion
成績評価方法	平常点にて各学期で評価 [Based on class performance]
テキスト	Draft of a new edition of the Sanskrit text of the <i>Vajracchedikā</i> by Harrison (to be made available at the beginning of the course). Chinese translations (Taishō Nos. 235–239, 220.9) and Tibetan version. Verse commentary attributed to Asaṅga plus that of Vasubandhu. Selected miracle tales in Chinese and Tibetan.
参考文献	<p>Conze, Edward. <i>Vajracchedikā Prajñāpāramitā, Edited and Translated with Introduction and Glossary (Serie Orientale Roma XIII)</i> (Rome: IsMEO, 1957). 2nd edition, with Corrections and Additions (Rome: IsMEO, 1974).</p> <p>Harrison, Paul. “Vajracchedikā Prajñāpāramitā: A New English Translation of the Sanskrit Text Based on Two Manuscripts from Greater Gandhāra,” in Jens Braarvig, gen. ed., <i>Manuscripts in the Schøyen Collection: Buddhist Manuscripts, Volume III</i> (Oslo: Hermes Publishing, 2006), pp. 133–159.</p> <p>Harrison, Paul. “Experimental Core Samples of Chinese Translations of Two Buddhist Sūtras Analysed in the Light of Recent Sanskrit Manuscript Discoveries,” <i>Journal of the International Association of Buddhist Studies</i>, Vol. 31, Nos. 1–2 (2008 (2010)), pp. 205–249.</p> <p>Harrison, Paul. “Resetting the Diamond: Reflections on Kumārajīva’s Chinese Translation of the <i>Vajracchedikā</i> (“Diamond Sūtra”),” <i>Journal of Historical and Philological Studies of China’s Western Regions</i>, No. 3</p>

	<p>(Beijing: Science Press) 2010, pp. 233–248.</p> <p>Harrison, Paul & Shōgo Watanabe, “Vajracchedikā Prajñāpāramitā,” in Jens Braarvig, gen. ed., <i>Manuscripts in the Schøyen Collection: Buddhist Manuscripts, Volume III</i> (Oslo: Hermes Publishing, 2006), pp. 89–132.</p> <p>Tucci, Giuseppe. <i>Minor Buddhist Texts, Part I (Serie Orientale Roma IX)</i> (Rome: IsMEO, 1956).</p> <p>Watanabe, Shōgo. <i>Kongōhannyagyō no kenkyū 金剛般若経の研究</i> (Tokyo: Sankibō Busshorin, 2009).</p>
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	<p>(a) Preparation: 120 min</p> <p>(b) Revision/review: 120 min</p>
履修上の注意	特になし
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19018
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
時限	火曜日5時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	桂大納言入道（藤原光頼）訓点『梁高僧伝』の研究
授業の目的・概要	<p>愛知県岩屋寺に所蔵される南宋思溪版 5,157 帖の中の『梁高僧伝』14 帖を多面的に研究する。この宋版には極めて詳細な仮名訓点が施されているのが特徴である。法助、経弁の奥書に依れば桂大納言入道の訓点であるという。桂大納言入道は俗名を藤原光頼と言ひ、参議の役職時の政争が『平治物語』に登場する。慈円は『愚管抄』のなかで光頼の学識を高く評価しているが、その学識がこの『梁高僧伝』に如実に現れていると見なしてよいだろう。</p> <p>日本中世における仏典理解の第一歩は訓読であり、ついでそれを正確に仏典に書き込み、読解の姿を示すことにある。日本仏教学史上では白点や朱点によってヲコト点を打ち、ついで仮名点を施した歴史がある。</p> <p>本書はそれらの中でも、理解度においては最高の部類に属する。貴族の生まれにして高度の学識を身につけた藤原光頼は、出家したあと仏典の研究にいそしみ、その成果を『梁高僧伝』に残した。</p> <p>これらの軌跡を丹念に追いつつ『梁高僧伝』そのものを読解していきたいと考える。</p>
到達目標	<p>桂大納言入道の博学な知識の形成を訓点から読み取ることが出来るようにすることを目標とする。将来、桂大納言入道は、中国の史伝を正確に読み解いた貴族官僚出身の学僧として位置づけられると考えられる。それには中国の歴史書に通暁することも求められる。</p>
授業計画	<p>以下の項目を中心にして演習を進める。なお、『梁高僧伝』研究史、訓点研究の現在等については随時補説して授業進捗に支障が無いよう努める。</p> <p>夏学期①桂大納言入道仮名点『梁高僧伝』の読解研究。②続き。③続き。④続き。⑤続き。⑥続き。⑦続き。⑧続き。⑨続き。⑩続き。⑪続き。⑫続き。⑬続き。⑭続き。⑮続き。</p> <p>冬学期①桂大納言入道が依拠した漢籍。②続き。③続き。④続き。⑤続き。⑥続き。⑦続き。⑧江戸時代版本に見られる高僧伝の読み。⑨続き。⑩続き。⑪続き。⑫続き。⑬続き。⑭続き。⑮続き。</p>
授業の方法	部類ごとの資料を基礎として当該分野の知識を習得し、原文を読解する過程で桂大納言入道の理解力を正確に把握するよう努める。
成績評価方法	平常点にて通年評価

テキスト	原文文献は随時提示する。
参考文献	岩波文庫『高僧伝』、国訳一切経史伝部『梁高僧伝』
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	講義・演習に関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19019
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
時限	金曜日3時限目
担当教員氏名	池 麗梅 准教授
授業題目	漢文大蔵経史研究—10～13世紀
授業の目的・概要	東アジア仏教にとって、漢文大蔵経を中心とする漢文仏教典籍はその思想文化の源流であり、また常に思想・信仰上の拠りどころ、基盤であり続けてきた。この授業では、漢文大蔵経の歴史を俯瞰した上で、特に10から13世紀にかけて現れた刊本大蔵経を中心に、それらの成立・変遷や、周辺諸国への伝播と後世への影響などについて、体系的に解説する。
到達目標	10～13世紀の漢文大蔵経史を俯瞰的に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 第1-3回 漢文大蔵経史の概観 第4-8回 開宝蔵の開板と影響 第9-13回 金蔵の出現と変遷 第14-15回 ディスカッション・総括 冬学期 第1回 復習と概説 第4-8回 江南系統大蔵経の開板と影響 第9-13回 思溪蔵の歴史と現在 第14-15回 ディスカッション・総括
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、必要に応じて参考資料も配布する。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）またはレポートにて通年で評価。
テキスト	野沢佳美『印刷漢文大蔵経の歴史—中国・高麗篇』（シリーズ・アタラクシア3）、東京：立正大学情報メディアセンター、2015年。
参考文献	李富華・何梅『漢文仏教大蔵経研究』、北京：宗教文化出版社、2003年。 李際寧『仏経版本』（中国版本文化叢書）、南京：江蘇古籍出版社、2002年。 大蔵会編『大蔵経—成立と変遷—』、京都：百華苑、昭和39年（1964）。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること。
履修上の注意	予習・復習と、積極的な授業参加が望まれる。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	19020
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
時限	木曜日3時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	『摩訶止観』研究2019
授業の目的・概要	『摩訶止観』は天台三大部の一書として知られ、全仏教の瞑想や観法などの実修を「止観」のもとに体系づけた書である。我が国には鑑真によってもたらされ、最澄も入唐の際に持ち帰っている。中国天台では湛然の『止観輔行伝弘決』以来多くの注釈書が作成され、我が国でも平安中期以降盛んに講究された。 本講はこの書を湛然や我が国の宝池房証真、癡空、守脱などの注釈書を手引きに講読し、東アジア仏教における実践体系を理解し、仏教全体の把握の一助とするのが目的である。
到達目標	テキストとその注釈書を読んで、漢文訓読に慣れて習熟するとともに、その内容を受講者自身の努力によって十分に理解することを目標とする。
授業計画	第1～2講 天台智顛の事績の概観、次に『摩訶止観』の成立、中国日本における流伝について概説する。以降は受講者による輪読。卷三上大3章体相の「境界」段の途中（テキスト第二冊、249頁）から読み始める。 第3～15講 第3章体相の「境界」と「得失」の各段と第4章の途中、テキスト卷三の末まで（テキスト第二冊、371頁）。 第16～30講 第4章撰法と第五章偏円、第6章方便の「持戒」の段まで（テキスト第二冊、534頁）。
授業の方法	テキストの輪読形式で行う。本書には参考書や解説書が多くあるので、受講者は各自それらを利用して授業に備えてもらいたい。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）にて通年で評価。
テキスト	『摩訶止観』天台大師全集本を使用する。上記の湛然等の注釈書が会本になっていて便利である。コピーを配布する。
参考文献	教場で指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間以上、復習には2時間程度の時間をかけること。
履修上の注意	予習のうえ、出席励行のこと。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19021
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
時限	木曜日2時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	金剛寺聖教『念仏要文抄』の研究
授業の目的・概要	金剛寺聖教にある『念仏要文抄』の中には“踊念仏和讃”なるものが含まれている。本和讃は時宗にその伝承が無いばかりか、諸文献にも全く見られない資料である。落合の幾つかの報告にも関わらず本和讃の撰述者と価値については認知されていない。そこで『念仏要文抄』全体はどのような文献であるのか、照っていきな解読作業を通じて概要把握に努めていく。
到達目標	日本中世の浄土教文献『念仏要文抄』がどの位置に立つのか、解読作業を通じて確定していくことが目標である。日本の浄土教は大きく分けると天台浄土教、法然浄土教、親鸞浄土教、一遍浄土教の四つに分類で

	きる。果たしてどこに位置するのか、それとも偽文献であるのか、それらを探査する研究である。
授業計画	夏学期：①日本仏教における一遍。②一遍の伝歴。③～⑤『一遍聖絵』を分析する。⑥『一遍語録』の伝承。⑦～⑮『念仏要文抄』にある「踊念仏和讃」の分析。 冬学期：①『念仏要文抄』の出現とその構成。②先行研究。③『念仏要文抄』読解。④続き。⑤続き。⑥続き。⑦続き。⑧続き。⑨続き。⑩続き。⑪続き。⑫続き。⑬続き。⑭続き。⑮続き。
授業の方法	演習形式で授業を進める。各自担当箇所在校訂・読解研究を準備してきてレジメを受講生の人数分コピーし配布する。担当していない受講生各人も共通理解のために積極的に発言することが望まれる。授業にあたっては基本的な辞書等の参考書を各人の机の上に置き、ノートパソコンを学内ネットにつなぎ、SATやCBETAなどにつないで異読を確認する。 なお、通常、電子辞書は有用であるが、旧漢字(正字)使用に慣れるために電子辞書の使用は禁止する。
成績評価方法	平常点にて通年評価。
テキスト	金剛寺聖教『念仏要文抄』を随時配布。
参考文献	日本の絵巻『一遍聖絵』(中央公論社)。『一遍語録』(岩波文庫)。『一遍聖絵』(岩波文庫)。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19022
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
時限	金曜日4時限目
担当教員氏名	池 麗梅 准教授
授業題目	東アジア仏教文献講読
授業の目的・概要	東アジア仏教文献の代表的なテキストを順次取りあげていくが、今年度は『続高僧伝』(巻27「遺身篇」)を講読する。『続高僧伝』は、中国中世の歴史・文化・思想にとどまらず、東アジア仏教文化史・文化交流史を研究する上で、不可欠な基礎的文献である。この授業は、日本古写経テキストを使用して、同書のテキスト変遷、僧伝成立の歴史的・思想的背景、戒律思想の展開などを総合的に検討することを目的とする。
到達目標	写本テキストの翻刻・校訂などの基礎訓練を行い、漢文の現代語訳に習熟し、テキスト内容を正確に理解した上で、的確な解釈もできるようになることを目標とする。
授業計画	夏学期 第1-2回 『続高僧伝』の概説 第3-14回 「釈僧崖伝」講読 第15回 ディスカッション・総括 冬学期 第1-2回 復習と概説 第3-14回 「釈大志伝」講読 第15回 ディスカッション・総括
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻刻・校訂・現代語訳するだけでなく、伝記内容の変遷、その背後にある歴史的・思想的背景を併せて考察する。

成績評価方法	平常点（出席率を含む）またはレポートにて通年で評価
テキスト	金剛寺本・興聖寺本・七寺本『続高僧伝』（巻 27「遺身篇」）
参考文献	必要に応じて関連資料を配布して利用する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には2時間、復習には2時間の時間をかけること
履修上の注意	積極的な授業参加と活発な討論が期待される。担当者は発表原稿を人数分用意すること
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19023
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
時限	木曜日4時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	『維摩経文疏』研究 2019
授業の目的・概要	本講は、天台智顛が晩年に晋王廣に献上するために著したとされる『維摩経文疏』を講読し、それによって智顛の教学思想を検討することを目的とする。本書は智顛の最晩年の思想を窺うことのできる重要な『維摩経』注釈書であるが、同じ智顛の『維摩経玄疏』や湛然『維摩経略疏』などに比べてこれまで余り顧みられておらず、国訳もまだない。したがってまず文献を正確に読み進めていくことが必要なので、国訳の訳注原稿を作成しながらその原稿の検討を行うことにしたい。
到達目標	テキストとその注釈書を読んで、漢文訓読に慣れて習熟するとともに、その内容を受講者自身の努力によって十分理解することを目標とする。
授業計画	初めての受講者がある場合、『維摩経文疏』についての概略を講義し、その後受講者の原稿発表という形式で演習を行う。したがって受講者は予め分担を決め、一定の書式で原稿を作成し、授業の際にその原稿を検討し、訂正して確定校を作成する。それがある程度分量に達したならば、本学の研究紀要などの媒体に発表することにしたい。本年度は2018年度の続き部分から講読していく。 第1～2講 『維摩経文疏』の解題 第3～6講 テキスト巻三の途中～末まで（482b1～483b24） 第12～15講 テキスト巻四の最初から途中まで（483c4～486c2） 第16～30講 テキスト巻四の途中から巻四の末まで（486c2～491c6）
授業の方法	演習形式でテキストを講読する。ローテーションを決め、毎回の発表者は分担部分の原稿を作成し、教場でそれを発表する。発表原稿はその場で検討し、添削修正し、それを本講における受講者全員の共通理解とする。
成績評価方法	平常点（授業中の発表を中心に出席立を含む）にて通年で評価。
テキスト	『新纂大日本統蔵経』巻18所収の『維摩経文疏』を使用する（コピーを教場にて配布）
参考文献	詳細は教場で指示するが、湛然の『維摩経略疏』は大正蔵テキスト第三十八巻から各自該当部分を複写しておくこと。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には3時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	出席励行のこと。発表者は必ず原稿を用意し、クラス全員に配布すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19024
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と生命倫理） 2単位
時限	集中講義（夏学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山 泰弘 講師（前埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と生命思想
授業の目的・概要	遺伝子操作や臓器移植など生命に関わる技術の進展は、現代の生命科学の大きな達成である。しかしそれが人間生活にもたらす意味については、さまざまな分野から問題提起がなされている。この問題を仏教との関わりにおいてどのように把握するかを検討するのがこの授業の目的であるが、そのためには、西欧近代における科学主義の思潮とそれに関わる議論の流れを振り返ってみる必要がある。この授業では生命思想という枠組みのもとで、ひろく仏教から見た生命に関する問題を考える。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理を問う現実の諸問題が多岐にわたることと、それに対してさまざまな思想的アプローチが可能であることを理解する。 ・生命倫理の問題が仏教の中にどのように位置づけられるかについて、理解を深める。
授業計画	<p><生命倫理></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生命倫理の諸テーマ 2 生殖補助医療 3 脳死と臓器移植 <p><科学技術論></p> <ol style="list-style-type: none"> 4 科学と価値 5 科学と技術 6 科学技術の変貌 <p><仏教の生命観></p> <ol style="list-style-type: none"> 7 古代インドの生命観 8 有情論の背景 9 受胎 10 胎児 11 自殺 12 安楽死 13 世俗倫理と仏教 14 生命倫理と仏教 15 徳倫理学と仏教
授業の方法	上記授業計画の内容に従って、関連資料を配付して概略を説明し、討論を行いながら、知識を深めていく。討論のなかで新しいテーマが出てきたときは、関連する資料を追加準備して次の回で扱う。授業の各回を通じて、いま問題にしている事項が仏教思想においてどこに位置するかという体系的な観点を考慮する。
成績評価方法	平常点にて各学期で評価
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	<p>H. リッケルト『文化科学と自然科学』（佐竹哲雄訳）岩波文庫 1939年 唐木順三『「科学者の社会的責任」についての覚え書』ちくま学芸文庫 2012年（1980年） 青野由利『生命科学の冒険—生殖・クローン・遺伝子・脳』ちくまプリマー新書 2007年 Keown, Damien : Buddhism and Bioethics. Palgrave, 2001 Keown, Damien : Buddhist Ethics. OUP. 2005</p>
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には1時間、復習には3時間の時間をかけること
履修上の注意	特になし
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19025
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と環境問題） 2単位
時限	集中講義（冬学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山 泰弘 講師（前埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と環境思想
授業の目的・概要	今日の地球温暖化や野生生物の絶滅などの問題は、環境問題を地球規模のスケールで考察しなければならないことを示している。このような深刻な環境問題が生じてくる思想的な背景として、19世紀以来の科学主義的思考があると考えられる。科学主義については、当時からその実体主義的思考を批判して、人間生活に由来する価値意識を重視する見解があった。環境も含めて人間を全体的に把握するという理解は、後に仏教思想に親和性を見出して、環境問題に対する仏教からのアプローチに期待する傾向を生じた。ただし仏教は独自の価値意識を持つから、この点を考慮しながら議論を積み重ねているのが現状であろう。この授業では環境問題に対する仏教思想の理解について、環境思想という枠組みの中で検討する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現実の環境問題が多様であることと、環境問題に対してアプローチするときに価値論的な視点が重要であることを理解する。 ・ 思想として仏教をとらえたときに、仏教は環境問題を自身の体系のなかでどのように扱うかについて理解を深める。
授業計画	<p><環境倫理></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境倫理の諸テーマ 2 公害病 3 地球環境問題 4 放射能汚染 <p><現代社会と自然></p> <ol style="list-style-type: none"> 5 自然の意味 6 世俗化と宗教 7 現代の環境思想 <p><仏教の自然観></p> <ol style="list-style-type: none"> 8 古代インドの自然観 9 不殺生 10 植物 11 仏性 12 自然との交渉 13 自然の価値（1）（理論的側面） 14 自然の価値（2）（実践的側面） 15 環境倫理と仏教思想
授業の方法	授業は、上に述べた幾つかの大きなテーマに関連する資料を紹介してその概略を説明し、出席者の間で意見を交換しながらより個別のテーマに絞り込み知識を深めるという方法をとる。個別のテーマを扱うときでも、常に環境問題全般に通ずる観点のもとで考察を深めていく。
成績評価方法	平常点にて各学期で評価
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	<p>和辻哲郎『風土—人間学的考察』 岩波文庫 1979年 加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』丸善ライブラリー 2005年 原実「不殺生考」国際仏教学大学院大学研究紀要 1（1998）pp.1-37. 原実「植物の知覚」国際仏教学大学院大学研究紀要 2（1999）pp.1-23. 原実『古代インドの環境論』東洋文庫 2010年 Schmithausen, Lambert : Buddhism and Nature, Studia Philologica Buddhica Occasional Paper Series VII, The International Institute for Buddhist Studies of the International College for Advanced Buddhist Studies, Tokyo, 2003</p>
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には1時間、復習には3時間の時間をかけること
履修上の注意	特になし
連絡方法	初回の授業で説明する

関連科目

科目番号	19026
科目名・単位数	比較宗教・比較文化 4単位
時限	月曜日3時限目
担当教員氏名	藤森 馨 講師（国士舘大学教授）
授業題目	平安祭祀制度と中世神道
授業の目的・概要	平安祭祀制度と中世の神道思想について文献も取り上げつつ検討したい。
到達目標	平安時代に誕生した祭祀制度について考察したい。神仏習合を前提とした中で、神道と仏教がどのように相互補完したか、神仏隔離を行ったかについても検討したい。
授業計画	<p>夏学期 (1) 十六社の成立 A (2) 十六社の成立 B (3) 十六社の成立 C (4) 祈年穀奉幣 A (5) 祈年穀奉幣 B (6) 公祭とは A (7) 公祭とは B (8) 伊勢神宮の祭祀 A (9) 伊勢神宮の祭祀 B (10) 伊勢神宮の祭祀 C (11) 伊勢神宮の祭祀 D (12) 公卿勅使の成立 A (13) 公卿勅使の成立 B (14) 夏学期のまとめ A (15) 夏学期のまとめ B</p> <p>冬学期 (1) 宮廷祭祀の中世的展開 (2) 祈年祭の展開 A (3) 祈年祭の展開 B (4) 祈年祭の展開 C (5) 祈年祭の展開 D (6) 二神約諾神話と皇室・摂関家 A (7) 二神約諾神話と皇室・摂関家 B (8) 二神約諾神話と皇室・摂関家 C (9) 二神約諾神話と皇室・摂関家 D (10) 祭主の勢力伸長 A (11) 祭主の勢力伸長 B (12) 真名鶴神話の展開 A (13) 真名鶴神話の展開 B (14) 冬学期のまとめ A (15) 冬学期のまとめ B</p>
授業の方法	テキストや文献を輪読する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価。
テキスト	岡田莊司編『日本神道史』（吉川弘文館） コピーを配布します。
参考文献	『古代の天皇祭祀と神宮祭祀』（吉川弘文館）
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習2時間。復習2時間。
履修上の注意	文献読解力を身につけていることが望ましい。
連絡方法	事務室を経由して連絡。

科目番号	19101
科目名	仏教学特殊研究
時限	水曜日3時限目(夏学期)
担当教員氏名	<p>代表者： 藤井 教公 教授 落合 俊典 教授 齊藤 明 教授 池 麗梅 准教授 デレアヌ フロリン 教授 藤井 教公 教授</p> <p>師 茂樹 講師(花園大学教授 5月8日担当) 吉水 千鶴子 講師(筑波大学教授 6月5日担当) 船山 徹 講師(京都大学教授 7月10日担当)</p>
授業の目的・概要	<p>本学教員、並びに外部講師と受講者の学生諸君が、現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることを授業の目的とする。またこの授業を学生諸君にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。</p>
到達目標	<p>学生諸君が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。</p>
授業計画	<p>初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。</p>
授業の方法	<p>初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意してパワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。</p>
成績評価方法	<p>履修単位は設定されていない。</p>
テキスト	<p>発表担当者が各自用意し、配布する。</p>
参考文献	<p>発表担当者がその都度指示する。</p>
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	<p>事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には1時間程度、復習には1時間程度の時間をかけること。</p>
履修上の注意	<p>全学生は目的意識をもって必ず参加すること。</p>
連絡方法	<p>初回の授業で説明する</p>

科目番号	19102
科目名	仏教学特殊研究
時限	水曜日3時限目(冬学期)
担当教員氏名	<p>代表者： 齊藤 明 教授 落合 俊典 教授 齊藤 明 教授 池 麗梅 准教授 デレアヌ フロリン 教授 藤井 教公 教授</p> <p>榎本 文雄 講師(大阪大学教授 10月9日担当) 種村 隆元 講師(大正大学准教授 11月6日担当) 金 文京 講師(京都大学名誉教授 2月5日担当)</p>
授業の目的・概要	本学教員、外部講師、ならびに学生が、現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマについて発表を行い、質疑応答と討論を通じて、仏教学に関する知見を深めることを目的とする。同時にまた、論文作成および学会発表の訓練の場として重要な意義をもつ。
到達目標	学生諸氏が研究発表に慣れるとともに、仏教学上の諸問題に関する知見を広め、理解を深めることを目標とする。
授業計画	初回の授業で、教員および学生が発表の順番と日時を決め、順次、現在取り組んでいる研究テーマに関する発表を行う。
授業の方法	発表者はパワーポイント、スライド、配布資料などを用い、一時間程度を持ち時間として発表を行う。その上で、出席者全員による質疑応答と討論を行う。
成績評価方法	履修単位は設定されていない。
テキスト	各回、発表担当者がレジメを用意し、配付する
参考文献	必要に応じて発表担当者が指示する。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間等	必要に応じて予習には1時間程度、復習には1時間程度の時間をかけること。
履修上の注意	全学生は、目的意識をもって必ず参加すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19103
科目名・単位数	日本語 I 4単位
時限	火曜日3時限目・金曜日3時限目
担当教員氏名	宮田 聖子 講師（東京工業大学非常勤講師）
授業題目	初級・中級前期の日本語 —初級文型とその応用—
授業の目的・概要	日本語レベル初級及び中級初期（学習時間0～400時間未満）の学生を対象に行う。 日本語の基本構造を習得し、四技能（話す・聞く・読む・書く）を養う活動へ発展させる。自分の意見をまとめ発表する力を身につける。 日常生活や学内での基本的な活動が問題なく行える日本語コミュニケーション能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N2レベルの日本語の力の獲得
授業計画	<p>夏学期</p> <p>第1週（1・2回）：初級文型1・「話す・聞く」技能 第2週（3・4回）：初級文型2・「話す・聞く」技能 第3週（5・6回）：初級文型3・「話す・聞く」技能 第4週（7・8回）：初級文型4・「話す・聞く」技能 第5週（9・10回）：初級文型5・「読む・書く」技能 第6週（11・12回）：初級文型6・「読む・書く」技能 第7週（13・14回）：初級文型7・「読む・書く」技能 第8週（15・16回）：初級文型8・「読む・書く」技能 第9週（17・18回）：初級文型9・四技能 第10週（19・20回）：初級文型10・四技能 第11週（21・22回）：中級文型1・四技能 第12週（23・24回）：中級文型1・四技能 第13週（25・26回）：中級文型2・四技能 第14週（27・28回）：中級文型3・四技能 第15週（29・30回）：中級文型4・四技能</p> <p>冬学期</p> <p>第1週（1・2回）：中級文型5・四技能 第2週（3・4回）：中級文型6・四技能 第3週（5・6回）：中級文型7・四技能 第4週（7・8回）：中級文型8・読解・論述 第5週（9・10回）：中級文型9・読解・論述 第6週（11・12回）：中級文型10・読解・論述 第7週（13・14回）：総合1・読解・論述 第8週（15・16回）：総合2・読解・論述 第9週（17・18回）：総合3・読解・論述 第10週（19・20回）：総合4・読解・論述 第11週（21・22回）：総合5・読解・論述 第12週（23・24回）：総合6・読解・論述 第13週（25・26回）：総合7・読解・論述 第14週（27・28回）：総合8・プレゼンテーション 第15週（29・30回）：総合9・プレゼンテーション</p>
授業の方法	テキストを使用し、初級前半においては、予習確認の小クイズ、文法の学習、応用練習を行う。読解の授業では語彙クイズ、読解、文法確認、討論、作文、発表の順に行う。また、毎回宿題を課す。
成績評価方法	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価

テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。
参考文献	『みんなの日本語初級Ⅰ, Ⅱ』スリーエーネットワーク 各国語版文法解説 『新完全マスター 日本語能力試験 読解 N3, N4』スリーエーネットワーク 『TRY! 日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語』アスク出版 『中級日本語文法要点整理ポイント 20』スリーエーネットワーク
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習に2時間程度、復習に2時間程度の時間をかけること
履修上の注意	出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19104
科目名・単位数	日本語Ⅱ 4単位
時限	火曜日2時限目
担当教員氏名	宮田 聖子 講師（東京工業大学非常勤講師）
授業題目	中級後期・上級の日本語 — 学術的活動へ—
授業の目的・概要	日本語レベル中級後半（初級基礎文型の習得が終了しており、学習時間が概ね450時間程度）以上の学生を対象に行う。 学術論文の読解ストラテジーを獲得する。また、討論、論評する活動を通してテーマについて論述するスキルと、それを口頭発表するプレゼンテーションスキルを養う。 日本語能力試験に向けて総合的なスキルを伸ばす。 日本での研究活動が十分に行えるより高度な日本語能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N1レベルの日本語力の獲得
授業計画	夏学期 第1回：文法1 第2回：文法2 第3回：文法3 第4回：文法4 第5回：文法5 第6回：文法6 第7回：文法7 第8回：読解1 第9回：読解2 第10回：読解3 第11回：読解4 第12回：読解5 第13回：読解6 第14回：読解7 第15回：読解8 冬学期 第1回：試験対策1 第2回：試験対策2 第3回：試験対策3

	第 4 回：試験対策 4 第 5 回：試験対策 5 第 6 回：試験対策 6 第 7 回：試験対策 7 第 8 回：作文指導 1 第 9 回：作文指導 2 第 10 回：作文指導 3 第 11 回：作文指導 4 第 12 回：作文指導 5 第 13 回：プレゼンテーション指導 1 第 14 回：プレゼンテーション指導 2 第 15 回：プレゼンテーション指導 3
授業の方法	テキストを用いて、予習を確認する小クイズ、読解作業、文法事項確認、討論、作文を行う。
成績評価方法	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
テキスト	受講生のレベルに応じて決定する。
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版、 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク 『上級日本語学習者対象 アカデミックライティングのための パラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習に 2 時間程度、復習に 2 時間程度の時間をかけること
履修上の注意	出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	19105
科目名・単位数	古文・漢文読解 I 4単位
時限	水曜日4時限目
担当教員氏名	田戸 大智 講師（早稲田大学非常勤講師）
授業題目	仏教漢文読解入門
授業の目的・概要	<p>仏教では後漢の頃より仏典の漢訳が開始され、多くの漢訳仏典やそれにもとづく註釈書などが生み出された。仏教思想を解明するためには、正確な読解が要求されることは贅言を要しない。</p> <p>本講義では、伝統的な訓読法を用いて、仏教漢文が読解できるようになることを目的としている。日本では漢文を日本語で解釈するための訓読法が体系化され、仏教漢文もまたこの方法によって理解されてきた。訓読法を習得すれば、文法構造を把握する能力が高まり、感覚的に読むことで起きる間違いを防止できる利点がある。特に日本仏教研究を行うためには、訓読法を習得することが必須である。</p> <p>そこで、訓読による仏教漢文の読解を修練していくために、前期ではまず、テキストにもとづいて基本文法を確認する。次に後期では基本文法を適宜参照しながら、様々な仏教漢文を取り上げ、実践的に訓読法を学習していきたい。後期では、経典や論書、中国の伝記史料、日本の仏教漢文などを読み進めていく予定である。</p>
到達目標	日本の凝然（1240～1321）が撰述した『八宗綱要』上下2巻（大日本仏教全書3所収）を訓読できる能力の修得を到達すべき目標としたい。
授業計画	<p>前期</p> <p>1 ガイダンス、訓読の必要性</p> <p>2~3 仏教漢文の学習方法、漢和辞典・仏教辞典の使用法と実習</p> <p>4~5 テキストとプリントの実習（1～3章）</p> <p>6~7 テキストとプリントの実習（4～5章）</p> <p>8~9 テキストとプリントの実習（6～7章）</p> <p>10~11 テキストとプリントの実習（8～9章）</p> <p>12~13 テキストとプリントの実習（10～11章）</p> <p>14~15 テキストとプリントの実習（12～14章）</p> <p>後期</p> <p>1 ガイダンス</p> <p>2~3 『過去現在因果経』・『金剛般若経』</p> <p>4~5 『大般涅槃経』・『俱舍論』</p> <p>6~7 『法華論』・僧祐『弘明集』</p> <p>8~9 慧皎『高僧伝』・道宣『続高僧伝』</p> <p>10~11 吉蔵『三論玄義』・法藏『華嚴五教章』</p> <p>12~13 道宣『集神州三宝感通録』・基『大乘法苑義林章』</p> <p>14~15 明恵『摧邪輪』・凝然『八宗綱要』など</p>
授業の方法	毎回配付する資料にしたがって授業を進める。漢文はすべてノートに書き写し、返り点を付したり書き下し文に直す作業を繰り返し行う。また声に出して読むことで漢文のリズムを習得する。語彙が不明である場合は、常に漢和辞典や仏教辞典で調べるよう訓練する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	『句形演習 新・漢文の基本ノート〈二色刷〉』（日栄社、1998）を主なテキストとし、『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社、2015）も必携とする。この他、プリントを配付する。
参考文献	加地伸行『漢文法基礎—本当にわかる漢文入門—』（講談社学術文庫、2010）、金岡照光『仏教漢文の読み方』（春秋社、1978）、木村清孝編著

	『仏教漢文読本』（春秋社、1990）、その他、各辞典などは教場にて指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	講義で配付した資料は、予習と復習を通して繰り返し読み込むことが実力の向上につながる。訓読の基本文法はテキストを適宜参照して解説するが、演習問題は各自復習して頂きたい。予習には120分、復習には120分の時間をかけること
履修上の注意	①授業では漢文訓読を実習形式で行うので、専用ノートを準備して予習と復習を必ず行う。 ②電子辞書や電子機器類の使用は禁ずる。語彙は必ず辞書で調べるようにする。 ③「古文・漢文読解Ⅱ」の講義を併せて聴講することが望ましい。
連絡方法	メール（初回の授業で確認する）

科目番号	19106
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅱ 4単位
時限	水曜日5時限目
担当教員氏名	小島 裕子 講師（鶴見大学仏教文化研究所特任研究員）
授業題目	仏典訓読初学講座
授業の目的・概要	<p>仏典の漢文は記載言語として表わされた古典語（文語）で、たとい現代中国語を母国語として自在に使用しているとしても、その特殊な文章構造の分析を介した完全な理解という点では次元を異にしよう。こと日本においては、漢字文化の受容とともに、その言語表記を享受するため、日本語によって漢文の文章構造を分析し、正確に文意を解釈するための学問が古来より培われてきた。「訓読」である。</p> <p>本講座は、漢文訓読のなかでも、特に寺院文化圏における学僧が行ってきた仏典訓読の学問を視野に入れ、とりわけ学ぶ機会の稀な「漢訳仏典に対する伝統的な訓読法」の習得をめざす。特に、漢文を訓読し、内容を理解する上で必要な、基礎としての「古典文法（文語）」の解説に重点を置いて授業を行う。</p> <p>仏教辞典における要語解説の表記を読み解きながら、解説に引用された典拠となる仏典の当該箇所を確認し、実例文献に基づく訓読法（訓点を付して訓読する方法）を教授する。またこれに併行して、訓読に有用な主要辞典（仏教系・国語系）の使用方法について教示したり、訓読に対する理解を深めるための「日本語表記の変遷」などにも言及したりすることで、文献資料学を究める受講者各自の研究の将来に資する講義でありたい。</p>
到達目標	<p>貴重な仏教文献資料を詳細に読み解いてゆくために必要とされる日本語表記の習得、各種仏教辞典の特徴を把握し、要語項目を読解して実際の研究に生かす能力を身につけることをめざす。</p> <p>漢文の白文に訓点を付す方法を習得して実践に備え、併せて仏教に関連する文献を〈声に出して読める力〉も養いたい。</p>
授業計画	<p>《夏学期》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 初回到授業の指針を述べる。「望月仏教大辞典」から要語を選び、引用された漢文の訓読体を正しい文法理解によって読むことができるか、また旧漢字の表記に対応できるかなどの問題定義を行ない、以後の具体的な授業に臨む姿勢を確認する。 2 「訓読」という学問① 大正新脩大蔵経の漢訳仏典に対する国訳一切経・国訳大蔵経・新国訳大蔵経・仏典講座等の紹介、解説。 3 「訓読」という学問② 具体的に学僧が訓点を付した写本・版本を紹介し、「訓読」とは何かを学ぶ意識を備える。 4 自ら「訓読」を行うために必要な主たる仏教学系辞典、および国語学系辞典の紹介を行なった上で、活用の実践に入る。 <p>以下、5回より演習と講義</p>

	<p>5-9 仏典に頻出する【「動詞活用表」作成プロジェクト】 『妙法蓮華経』「観世音菩薩普門品」内の動詞を抽出、訓読の仕方について実際に辞書を引きながら学び、活用法を詳細な文法の解説を通して習得する。以下、動詞表は講義で遇した諸経典内の動詞についても随時書き込みを加え、年間を通して完成。</p> <p>10-12 仏典に頻出する仮定表現について、動詞の活用の型を徹底的に学び、それに伴う助動詞も同時に習得する。</p> <p>13-15 仏典に頻出する受身・使役などの助動詞の様々な事例・訓読、および関連の文法を習得する。 《冬学期》</p> <p>16-17 仏典の型「六時成就（如是・我聞・一時・佛・在某所・与某衆俱）」、「白佛言」、「白～曰」などを学ぶ。</p> <p>18 仏典に頻出する副詞（否定・時間・範囲・程度・状態・語気）について概論的な講義を行い、以後の講義に備える。</p> <p>19-21 仏典に頻出する「否定副詞」事例・訓読、関連の文法 22-24 仏典に頻出する「時間副詞」事例・訓読、関連の文法 25-27 仏典に頻出する「程度副詞」事例・訓読、関連の文法 28-29 仏典に頻出する「状態副詞」事例・訓読、関連の文法 30 年度内総括 今年度の「動詞活用表」の完成</p>
授業の方法	<p>講義と演習（習熟のための練習）を繰り返すことで、受講者のリテラシーの向上をはかる。</p> <p>年間を通して、一般古典の文法書に挙がる用例では不十分な「仏典に頻出する動詞」について、その活用と仮名訓を一覧できる独自の【「動詞活用表」作成プロジェクト】を受講生とともに遂行、当該教室における成果として構築してゆく。表の作成は文字の記入のみに止まらず、声に出して復唱する実践を伴うことで、記憶的な効果へと繋ぐ。</p> <p>「仏典に頻出する表現」について、毎回、様々な仏典から具体的な要文の事例を挙げ、前半でその漢文訓読と訓読に伴う文法の要点を解説、後半で当該箇所を含む実際の仏典を一覧し、要文の周辺部を含めた訓読の演習を行う。</p>
成績評価方法	毎回の講義における理解度（平常点）により、総合的に評価する。
テキスト	望月信亨『仏教大辞典』の要語項目の複写を主要テキストとして配布する。加えて仏典資料などを配布する。文語文法の解説書として『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社）、辞書として『新版古語辞典〈机上用〉』（角川書店）を各自の必携とする。
参考文献	中村元『仏教語大辞典』、望月信亨『仏教大辞典』、織田得能『仏教大辞典』、宇井伯壽『仏教辞典』、『日本仏教語辞典』（岩本裕）ほか各種仏教辞典。『日本国語大辞典〈第二版〉』（小学館）、『日本語文法大辞典』（明治書院）、『新大字典〈普及版〉』（講談社）、『漢字源〈改訂第五版〉』（学研）など各種国語辞典。上記以外の辞典についても、講義時に随時、紹介してゆく。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	<p>各自、毎回の講義で配布する参考資料をファイリングし、受講前の予習として必ず目を通した上で授業に参加すること。蓄積されゆく資料を重ねて通読することを通して、次第に理解は深まる。</p> <p>受講後は必ず授業内容を反芻し、次回の授業に備えること。準備学習として、予習に120分、復習に120分程度の時間を要する。</p>
履修上の注意	<p>本講座は、仏教文献資料学を遂行するために必要な基礎を学ぶ留学生の読み書き、リテラシーの向上をめざして開設する。日本語習得のステップを踏みながらの受講であることを配慮し、説明などは懇切に行ってゆくことを心がけるが、基礎を修めるといふことにおいて、日本語を母国語とする者と何らレベルの上で変わらぬ有益な内容を提示することを断っておきたい。</p> <p>継続履修の意義を念頭に、毎回の講義で具体的に訓読する仏典の文例は常に新規を提示してゆく。併設される「古文・漢文読解Ⅰ」とともに受講することが望ましい。</p>
連絡方法	初回の授業で説明する。

未修者のためのサンスクリット語

科目番号	19107
科目名・単位数	サンスクリット語 4単位
時限	火曜日 4時限目（夏学期） 火曜日 5時限目（冬学期）
担当教員氏名	宮本 久義 講師（東洋大学 客員教授）
授業題目	サンスクリット語入門
授業の目的・概要	サンスクリット語の文法を学習し、インド哲学仏教学文献の読解力を身につけることを目的とする。サンスクリット語はインドの文学、思想、宗教を育み、サンスクリット文化という言葉があるように、インド人が構築した有形・無形の価値観の理解に必須の言語である。インドではサンスクリット語の習得には三生かかるといわれている。これは大分誇張されたことばではあるが、実際文法規則が多いのは事実である。しかし、他の言語と同様、覚える規則は最小限に絞り、系統立てて学習することにより、十分習得可能な言語である。本講は初学者のために開講するが、復習のために参加したいという受講生も対象とする。
到達目標	サンスクリット文法の基礎を習得し、文法書と辞書を使用して各自が研究対象とする文献を研究する際の読解力を養うことを目標とする。
授業計画	夏学期 第1回：インドの言語について 第2～3回：文字と発音 第4回：母音の階梯、絶対語末 第5～7回：連声法 第8～10回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹 第11～13回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹以外の語幹 第14～15回：代名詞、数詞 冬学期 第1回：動詞の概要 第2～5回：第1次活用法（現在・アオリスト・完了・未来） 第6～8回：第2次活用法（受動・使役） 第9～11回：準動詞（過去分詞など） 第12～13回：複合語 第14回：韻律 第15回：総括
授業の方法	吹田隆道編著『実習サンスクリット文法』に従って解説する。補足すべき点があれば、資料を配布する。文法事項解説の進み方に合わせて、練習問題にも取り組んでもらう。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	吹田隆道編著『実習サンスクリット文法—荻原雲来『実習梵語学』新訂版』春秋社、2015年
参考文献	Charles Rockwell Lanman, <i>A Sanskrit Reader: Text and Vocabulary and Notes</i> , Harvard University Press, 1884. (リプリント版が廉価で入手可能) 辻直四郎『サンスクリット文学史』岩波全書、1973
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習・復習ともに120分程度の時間をかけてほしい。
履修上の注意	文法の学習において、予習はその日の授業で何を学ぶのかを予め把握しておく作業である。それゆえ長い時間をかける必要はないが、わからない点を抑えておくことが肝要。いっぽう、復習は習ったことが文法規則全体のどの部分を構成するのかをしっかりと抑え、さらに最小限暗記すべき規則を暗記する努力をしなければならないので、十分な時間をかけることが望ましい。また語学習得という授業の性質上、欠席はできる限りしないように。受講生は疑問点が残らないように、何度でも質問していただきたい。
連絡方法	初回の授業で説明する

未修者のためのチベット語

科目番号	19108
科目名・単位数	古典チベット語 4単位
時限	金曜日4時限目
担当教員氏名	齊藤 明 教授
授業題目	古典チベット語入門
授業の目的・概要	チベット語には大別して、およそ8世紀以降の文献や碑文に記された文語と、現在の中国チベット自治区およびその周辺諸省、ならびにネパール、ブータン、インド等の中国以外の地で話される口語とがある。ここにいう「古典」チベット語とは、主に8世紀から18世紀頃までの仏典を中心とする諸文献・碑文が用いるチベット文語をさす。授業では、この古典チベット語文法を講義し、受講者がチベット人の撰述文献とともに、チベット語翻訳仏典を読むための基礎力を養うことを目的とする。
到達目標	古典チベット語文法の基礎を学び、チベット撰述文献および翻訳仏典を読むための、的確な読解力を得ることを目標とする。
授業計画	夏学期 1-2 導入と序論 古典チベット語とは何か。チベット語の文字と文法。仏典チベット語訳の特性、辞書と文法書他。 3-15 チベット語古典文法 冬学期 1-2 単文と複文 3-15 選文講読（『中論』『廻諍論』『六十頌如理論』他を部分講読）
授業の方法	講義を中心とし、部分的に資料を配布して講読を行う。参考文献ならびに関連研究は授業の中で紹介する。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価。
テキスト	プリント配布する。
参考文献	・星泉『古典チベット語文法—『王統明鏡史』（14世紀）に基づいて—』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2016. ・山口瑞鳳『概説チベット語文典』春秋社, 2002.
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には4時間、復習には1時間の時間をかけること
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。
連絡方法	初回の授業で説明する